

minamina Vol.26 通信

第21期 2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日

株式会社
メディカルシステムネットワーク

証券コード：4350

わたしたちの目指すもの

良質な医療インフラを創造し
生涯を見守る「まちのあかり」として
健やかな暮らしに貢献します





ごあいさつ

平素より株式会社メディカルシステムネットワークに格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社は、2019年3月31日をもちまして第21期の決算が終了いたしました。ここにその概況についてご報告申し上げます。

皆様におかれましては、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 田尻 稲雄

Q1 当期(2019年3月期)の決算のポイントなどについて教えてください。

A1 第五次中期経営計画の1年目となる

当連結会計年度の業績に関しましては、主力事業である医薬品等ネットワーク事業で新規加盟件数が大幅に増加したこと、調剤薬局事業において新規出店やM&Aにより取得した店舗の業績が寄与したことにより、売上高は98,232百万

円(前年同期比4.5%増)となりました。一方、利益面につきましては、2018年4月に実施された薬価改定及び調剤報酬改定の影響や仕入価格の上昇により、営業利益は1,428百万円(同54.8%減)、経常利益1,501百万円(同53.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益462百万円(同54.7%減)となりました。

Q2 第五次中期経営計画の2年目となる2020年3月期の取組と、業績の見通しを教えてください。

A2 医薬品ネットワークにおいては、加盟店と一丸となった流通効率化や加盟店同士が

連携するローカルネットワーク構築の取組等を進めながら、2020年3月末時点における加盟件数は第五次中期経営計画の最終年度(2022年3月期)目標を2年前倒した5,000件を目指してまいります。調剤薬局においては、かかりつけ機能の発揮による処方箋獲得、在宅・健康サポート機能の強化や業務の効率化に努め、医薬品製造販売においてはラインナップの拡充を図ってまいります。

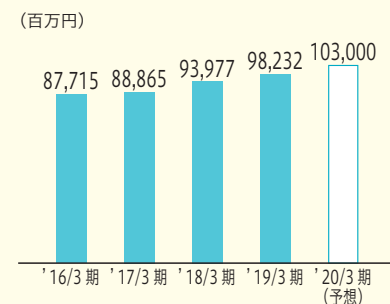
賃貸・設備関連事業においては「ウイステリア千里中央」及び「ウイステリア南1条」の入居者獲得、給食事業・訪問看護事業においては収支の安定化を目指してまいります。

また、薬局関連法制の改正に向けた適切な対

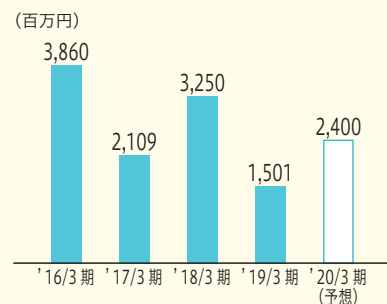
主な経営指標の推移

Financial Highlights

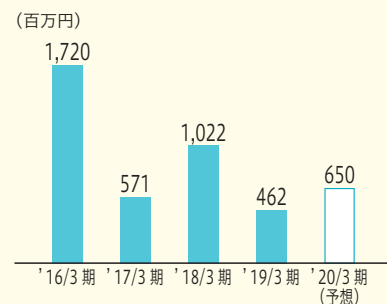
売上高



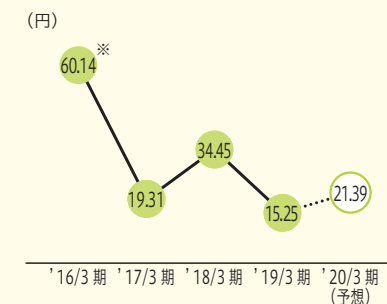
経常利益



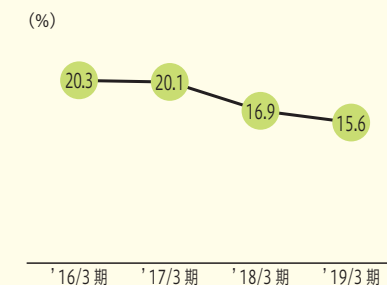
親会社株主に帰属する当期純利益



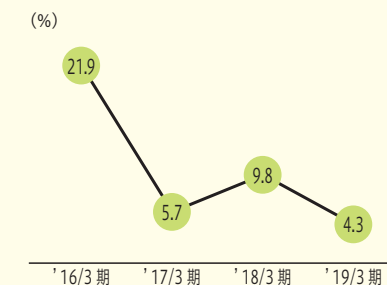
1株当たり当期純利益



自己資本比率



ROE



※ 増資及び自己株式処分後の期中平均株式数で算出

応や、次期診療報酬改定に備えた体制を構築してまいります。

これらの取組により、2020年3月期の業績は、売上高103,000百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益2,500百万円（同75.0%増）、経常利益2,400百万円（同59.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益650百万円（同40.4%増）を見込んでおります。

なお、医薬品ネットワーク加盟件数の増加と医薬品製造販売事業の始動により事業領域がサプライチェーン全体に拡大したため、2019年

4月より、サプライチェーン全体に対する価値の提供を推進する管理体制に変更いたしました。これに伴い、医薬品ネットワーク、調剤薬局、医薬品製造販売の3事業を1つのセグメントに統合し、地域薬局ネットワーク事業とするセグメント区分の変更を行っております。

2020年3月期の配当金に関しましては、株主の皆様のご支援に定めるべく、当期配当と同額の1株当たり10円（中間配当5円）の配当を予定しております。



株主の皆様へのメッセージをお願いします。



2018年4月に実施された薬価改定及び調剤報酬改定は厳しい内容でしたが、医薬品ネットワークは想定を上回るペースで拡大しております。第五次中期経営計画に掲げた基本方針等を着実に実行するとともに、拡大する医薬品ネットワーク加盟店との連携を深めることで地域医療に貢献し、中期経営計画の目標達成に向

けた努力をしております。

また、当社グループは、創業から20年の節目にあたり2019年1月に『良質な医療インフラを創造し生涯を見守る「まちのあかり」として健やかな暮らしに貢献します』を新たなグループ理念として制定いたしました。医療と生活の基盤を創造し、住み慣れた場所で生涯安心して暮らせる「まちづくり」の一翼を担うことで、地域の皆様の健やかな暮らしに貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援くださいますよう、宜しくごお願い申し上げます。

2019年3月期 重点施策レビュー

重点施策	実績	評価
医薬品等ネットワーク事業		
加盟件数 5,000件に向けた体制強化 流通効率化：在庫管理・発注の精度向上	加盟店マネジメントシステムの新規導入 在庫管理システムの改修、自動発注を順次拡大	○
サービス拡充：新規メニュー検討	ローカルネットワーク構築に着手	○
期末加盟件数目標：3,200件	流通改善の取組を推進 目標達成 ▶ 3,790件（前期末比 1,281件増）	◎
調剤薬局事業		
調剤報酬改定への対応、処方箋獲得	後発医薬品調剤体制加算 取得店舗割合は、26点：目標19.7% ▶ 実績28.5% 22点：目標25.3% ▶ 実績27.1% 18点：目標28.8% ▶ 実績21.1%	○
	処方箋の応需枚数が計画比未達	△
医療の質の向上：個人活動の見える化と教育研修	2019年1月に、社内学術大会「なの花フォーラム2019」を開催	○
在宅・健康サポート機能の強化	健康サポート薬局 25店舗/420店舗（前期末比 8店舗増）	○
出店・M&A：新規 20店舗増	目標達成 ▶ 新規出店5店舗、M&A30店舗 合計35店舗	◎

重点施策	実績	評価
他4事業		
賃貸・設備関連事業 「ウイステリア千里中央」と 「ウイステリア南1条」の入居者獲得	入居戸数： ウイステリア千里中央 56戸/全82戸（前期末比 22戸増） ウイステリア南1条 47戸/全115戸（2018年11月開業）	○
給食事業 食材費適正化、安全衛生	不採算施設の撤退	△
訪問看護事業 事業所拡大、早期黒字化	なの花訪問看護ステーション仙台を開設、利益計画未達	△
医薬品製造販売事業 ラインナップの拡充	2018年6月後発医薬品の発売開始 ▶ ラインナップ17成分34品目に拡大	○
その他のテーマ		
医療・介護連携 医療ICTへの対応：電子お薬手帳 健康経営	・2018年5月よりオリジナル電子お薬手帳アプリ 『なの花 おくすり手帳』を導入 ・新たにグループ理念と健康宣言を制定	○

1. 中期経営計画の基本方針

第五次中期経営計画においては、以下の基本方針に基づき、積極的な事業展開を図ってまいります。

基本方針

- (1) 医薬品ネットワークの拡大を通じ、地域医療を支える中堅・中小薬局の経営を支援するとともに、医薬品流通の効率化に加盟店が一丸となって取り組みます。
- (2) 医療機関としてグループ薬局の質を高め、地域医療における課題解決に主体的に取り組み、かかりつけ機能を発揮します。
- (3) 良質な後発医薬品の製造販売を拡大し、国が推し進める後発医薬品の普及促進と効率的な医薬品流通の実現に貢献します。
- (4) グループ事業の連携を深め、地域包括ケアシステムで必要とされる医療・介護・予防等のコミュニティ・ケア機能を一体的に提供します。
- (5) キャッシュフローを改善し、経営体制の効率化を進め、財務体質の強化を図ります。

また、地域住民の健康を支える企業として、社員の活力を高める健康経営を推進するとともに、環境への配慮や社会貢献活動、ガバナンスの向上に継続的に取り組みます。

2. 経営目標 (2022年3月期連結ベース)

(百万円)

- 医薬品ネットワーク加盟件数 **5,000**件
- 連結売上高 **1,200**億円
- 連結営業利益 **50**億円
- 連結EBITDA **75**億円
- 自己資本比率 **30%**以上

	2019年3月期 実績・初年度	2022年3月期 目標・最終年度
医薬品ネットワーク加盟件数(件)	3,790	5,000
連結売上高	98,232	120,000
連結営業利益	1,428	5,000
連結EBITDA	4,200	7,500
自己資本比率(%)	15.6	30.0

◆ 地域薬局ネットワーク事業

医薬品ネットワーク

- 流通効率化
：EOS発注率・返品率のフォローアップ
- ローカルネットワークの取組加速
(加盟店同士の地域連携)
- 期末加盟件数目標：**5,000**件
(中計目標を2年前倒し)

調剤薬局

- かかりつけの取組推進、処方箋獲得
：店舗別施策、待ち時間削減
- 業務効率化
：タブレット薬歴、自動発注システム
- 在宅・健康サポート機能の強化



医薬品製造販売

- ラインナップ拡充：自社品・併売品

◆ 賃貸・設備関連事業

- ウィステリア千里中央・ウィステリア南1条の入居者獲得



2018年11月開業のウィステリア南1条(北海道)

◆ 給食事業、訪問看護事業

- 収支安定化

◆ その他のテーマ

薬機法改正に向けた適切な対応

- 服薬期間中のフォローアップ
- 薬局の機能別分類
- 遠隔服薬指導

地域薬局の本来業務

来期診療報酬改定に備えた体制構築

- 薬剤師が職能を発揮する時間の捻出
- 本部のスリム化、人員配置の見直し

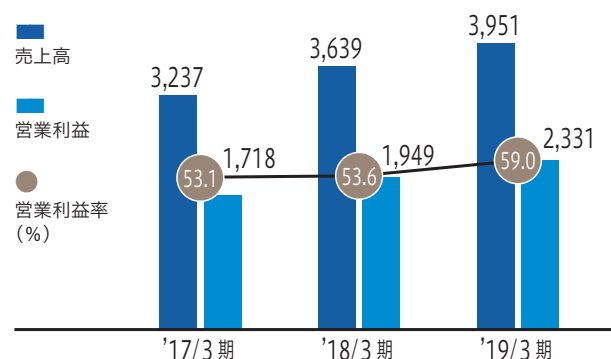
※セグメント区分の変更については、10ページをご参照ください。

◆ 医薬品等ネットワーク事業

2019年3月期実績

売上高	3,951 百万円
営業利益	2,331 百万円

売上高・営業利益の推移 (百万円)



当社サービスの認知度向上に加え社外パートナー企業との連携が奏功したこと及び、2018年4月の流通改善ガイドライン適用開始を背景に、当事業において取り組んでいる流通効率化へのニーズが高まり、新規加盟件数が大幅に増加いたしました。これにより、売上高は3,951百万円（前年同期比8.6%増）、営業利益2,331百万円（同19.6%増）となりました。

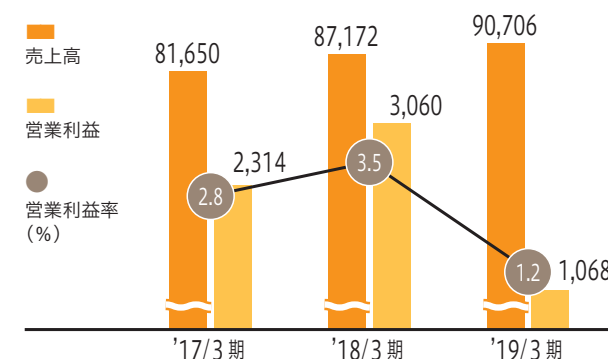
なお、2019年3月31日現在の医薬品ネットワーク加盟件数は、調剤薬局3,729店舗、61病・医院の合計3,790件（前連結会計年度末比1,281件増）となり、今期の目標加盟件数3,200件を上回る結果となりました。近年は加盟店拡大のペースが加速しております。

◆ 調剤薬局事業

2019年3月期実績

売上高	90,706 百万円
営業利益	1,068 百万円

売上高・営業利益の推移 (百万円)

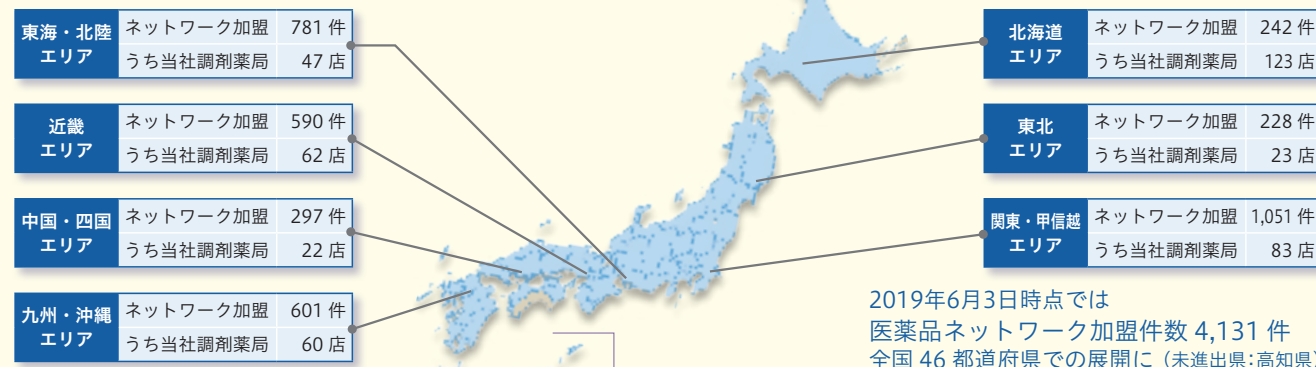


新規出店やM&Aにより取得した店舗の業績が寄与したこと等により、売上高は90,706百万円（前年同期比4.1%増）となりました。利益面につきましては薬価改定及び調剤報酬改定の影響や仕入価格の上昇により、営業利益1,068百万円（同65.1%減）となりました。

なお、出退店状況に関しましては、調剤薬局5店舗を新規出店するとともに株式取得により2社25店舗、事業譲受けにより5店舗を取得する一方、11店舗の閉鎖（内、ドラッグストア3店舗）及び6店舗の事業譲渡を行いました。2019年1月の株式取得により連結子会社とした株式会社永富調剤薬局は、大分県に23店舗を展開しており、九州地方でのドミナント化が大きく進展いたしました。2019年3月31日現在の店舗数は、調剤薬局420店舗、ケアプランセンター1店舗、ドラッグストア5店舗となっております。

医薬品ネットワーク加盟件数 3,790件

(2019年3月31日時点)



2019年6月3日時点では
医薬品ネットワーク加盟件数 4,131 件
全国 46 都道府県での展開に（未進出県：高知県）

初のプライベートブランド商品「乳酸菌のど飴NP」を販売開始

なの花薬局では、「セルフメディケーション」推進の一環として2018年12月中旬より順次、全国のなの花薬局（一部店舗を除く）の店頭でのど飴の販売を開始いたしました。

商品特徴

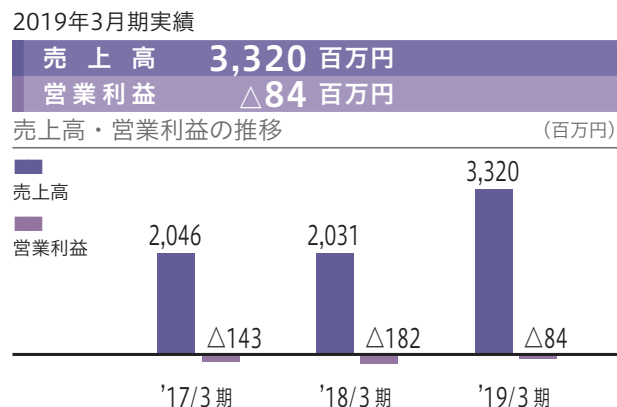
- 砂糖不使用
- カロリーカット
- すっきりヨーグルト風味
- ラクトフェリン & シールド乳酸菌® 配合
- ラクトフェリン
長年のミルクの研究により、ラクトフェリンには健康なカラダを維持する力（母乳に含まれる成分）があることがわかっています。
- シールド乳酸菌®
カラダを守るために、選び抜かれた乳酸菌です。

※「シールド乳酸菌」は森永乳業(株)の登録商標です。



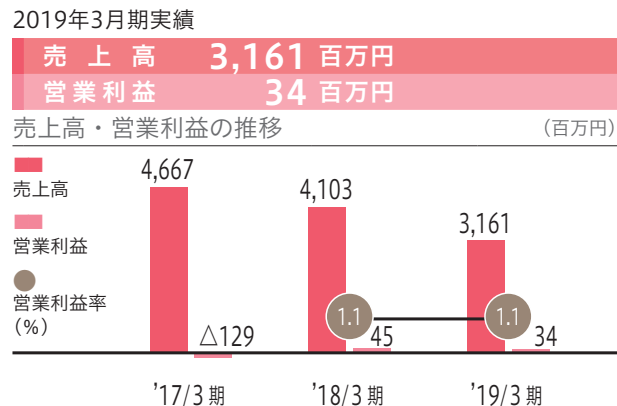
◆ 賃貸・設備関連事業

不動産賃貸収入が概ね堅調に推移したことや、医療施設等の設計施工監理業務が増加したこと等により、売上高は3,320百万円（前年同期比63.4%増）となりました。利益面につきましては、2018年11月に開業したサービス付き高齢者向け住宅「ウイステリア南1条」の費用が先行すること等により、営業損失84百万円（前年同期は営業損失182百万円）となりました。



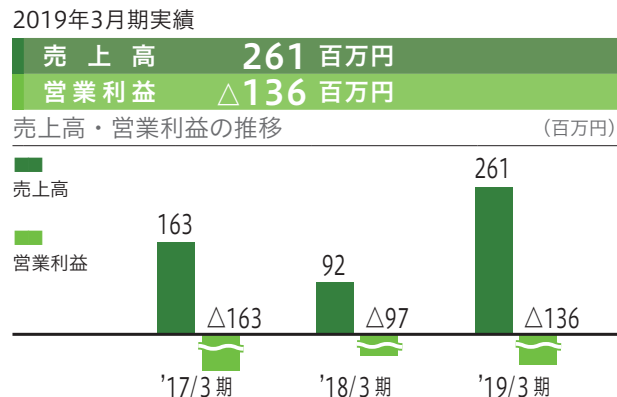
◆ 給食事業

2017年10月以降、不採算施設の撤退を進めたことや一部施設における労務費の増加等により、売上高は3,161百万円（前年同期比23.0%減）、営業利益34百万円（同22.7%減）となりました。



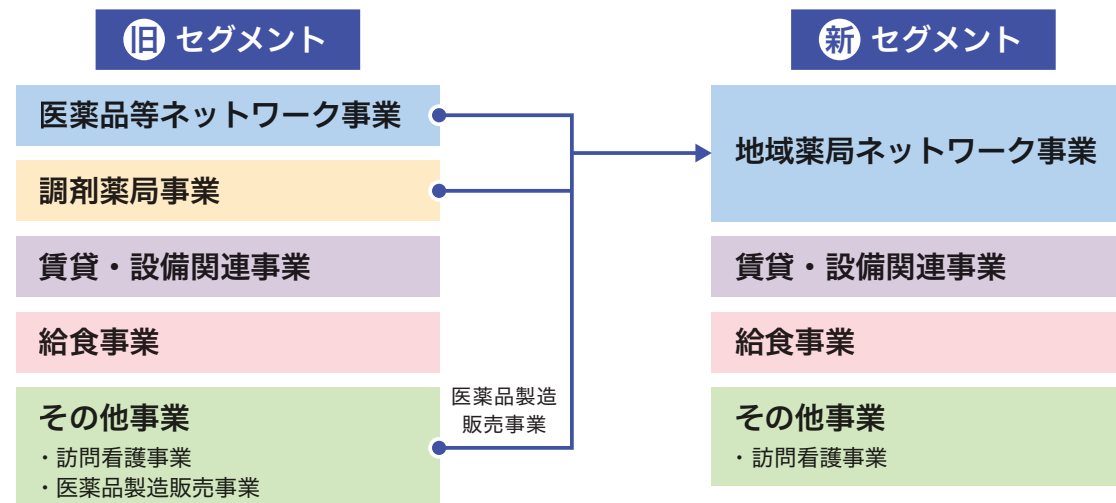
◆ その他事業

本事業では、訪問看護事業及び医薬品製造販売事業を行っており、売上高は261百万円（前年同期比181.2%増）、営業損失136百万円（前年同期は営業損失97百万円）となりました。



セグメント区分の変更について

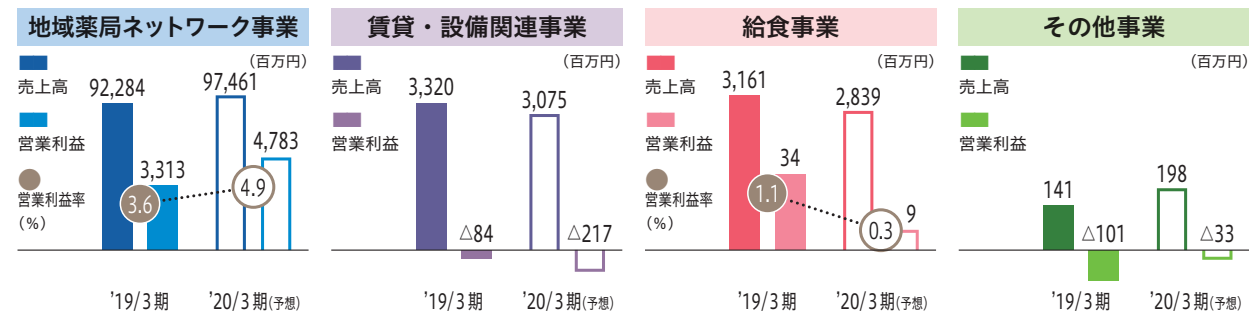
2019年4月よりセグメント区分を変更し、下記4つのセグメントに再編しました。



【セグメント再編の主な理由】

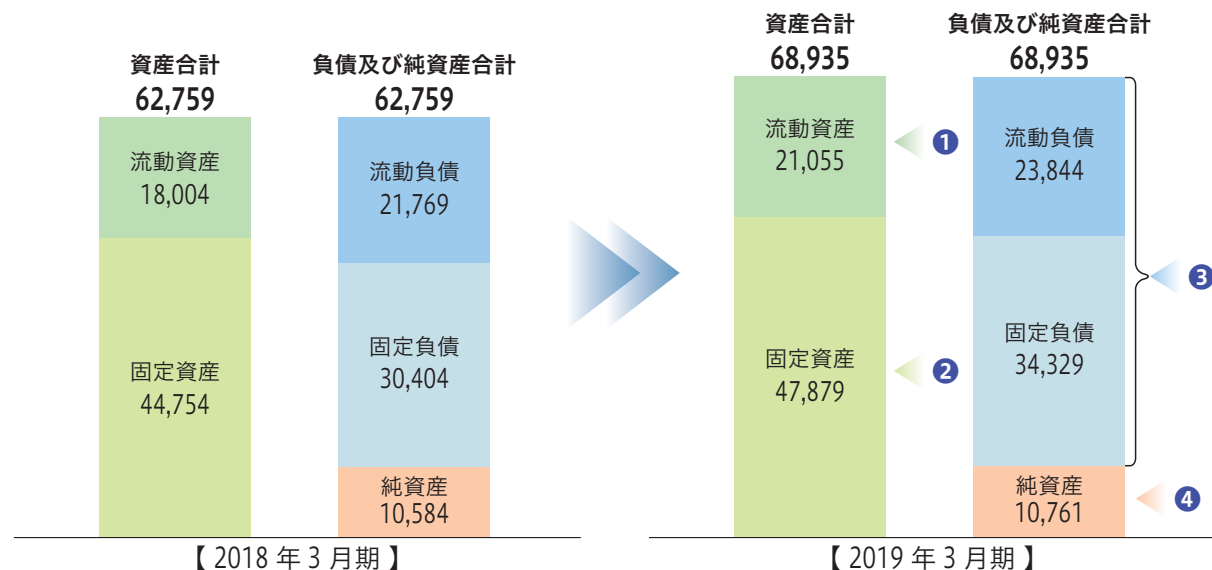
- 医薬品ネットワーク加盟件数の増加と医薬品製造販売事業の始動により、事業領域がサプライチェーン全体に拡大
- これを受け、セグメントの区分を、事業間における利益相反の可能性にも配慮し、サプライチェーン全体に対する価値の提供を推進する体制に変更

セグメント別通期業績予想(連結)



財務状態の概要

(百万円)



連結貸借対照表のポイント

当期（2019年3月期）末における資産合計は68,935百万円となり、前期末に比べ6,176百万円増加しました。

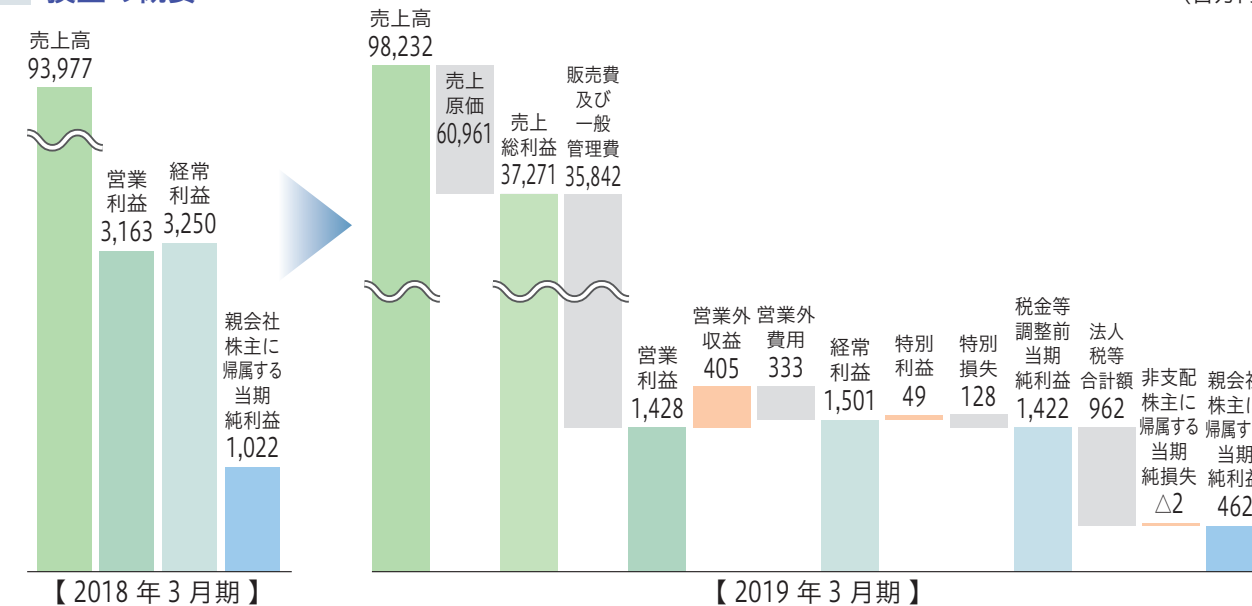
- ① 流動資産は、21,055百万円となり、前期末に比べ3,050百万円の増加となりました。主な要因は、現金及び預金が増加したことによるものです。
- ② 固定資産は、47,879百万円となり、前期末に比べ3,125百万円の増加となりました。主な要因は、建物及び構築物並びにのれんが増加したことによるものです。
- ③ 負債合計は、58,173百万円となり、前期末に比べ5,999百万円増加しました。流動負債は23,844百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,075百万円の増加

となりました。主な要因は、買掛金及び短期借入金が増加したことによるものです。固定負債は34,329百万円となり、前期末に比べ3,924百万円の増加となりました。主な要因は、長期借入金が増加したことによるものです。

- ④ 純資産は、10,761百万円となり、前期末に比べ176百万円の増加となりました。主な要因は、利益剰余金が増加したことによるものです。

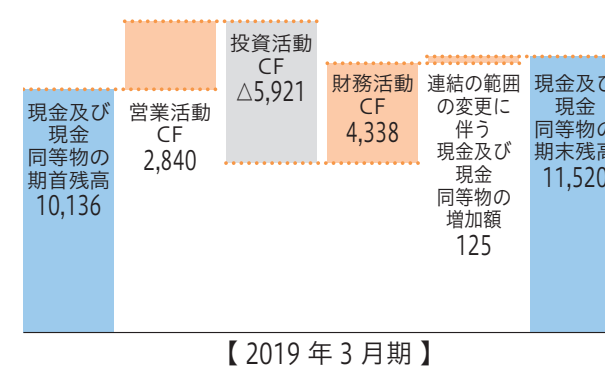
損益の概要

(百万円)



キャッシュ・フローの概要

(百万円)



当期（2019年3月期）末における連結ベースの現金及び現金同等物の期末残高は、11,520百万円（前期末は10,136百万円）となりました。当期におけるキャッシュ・フローの状況については右記のとおりです。

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

- ① 営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動によるキャッシュ・フローは、2,840百万円の収入（前年同期は6,699百万円の収入）となりました。主な要因は、法人税等の支払額1,672百万円があったものの、税金等調整前当期純利益1,422百万円及び減価償却費1,624百万円並びにのれん償却額1,147百万円によるものです。
- ② 投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動によるキャッシュ・フローは、5,921百万円の支出（前年同期は6,848百万円の支出）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出3,094百万円及び連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出2,898百万円によるものです。
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動によるキャッシュ・フローは、4,338百万円の収入（前年同期は8,050百万円の収入）となりました。主な要因は、借入金の増加額5,173百万円によるものです。

会社概要

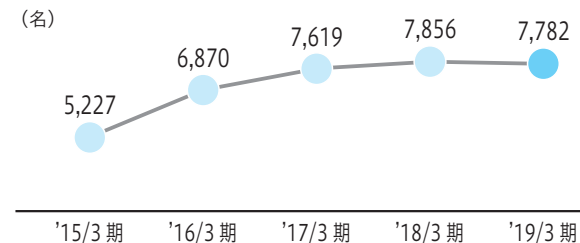
社名 株式会社メディカルシステムネットワーク
 本社 北海道札幌市中央区北10条西24丁目3番地
 設立 1999年9月
 資本金 2,128百万円
 代表者 代表取締役社長 田尻稲雄
 主な子会社 株式会社北海道医薬総合研究所
 株式会社なの花北海道
 株式会社なの花東北^{※1}
 株式会社なの花東日本
 株式会社なの花中部
 株式会社なの花西日本^{※2}
 株式会社トータル・メディカルサービス
 株式会社永富調剤薬局
 株式会社フェルゼンファーマ

※1 2019年4月1日に株式会社アポテックより商号変更しております。
 ※2 2019年4月1日に株式会社共栄ファーマシーより商号変更しております。

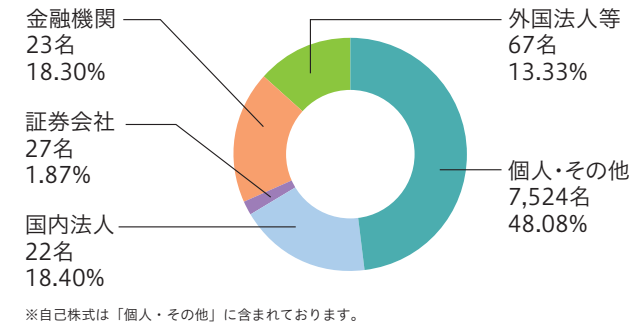
株式の状況

発行可能株式総数…………… 72,000,000株
 発行済株式総数…………… 30,642,600株
 株主総数…………… 7,782名

株主数の推移



株式分布状況 (単元未満株式を除く)



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1 合同会社エスアンドエス	2,769,100	9.03
2 沖中恭幸	2,506,000	8.17
3 KBL EPB S.A.107704 (常任代理人(株)みずほ銀行決済営業部)	2,443,800	7.97
4 秋野治郎	2,216,500	7.23
5 日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	1,478,400	4.82
6 日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1,402,900	4.57
7 (株)EP 総合	800,000	2.61
8 田尻稲雄	667,200	2.17
9 メディカルシステムネットワーク 従業員持株会	589,300	1.92
10 日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口5)	421,100	1.37

※発行済株式総数に対する所有株式数の割合は小数点第三位以下を切捨てて表示しております。

従業員の状況 (連結)

従業員数	前期末比増減
3,076名	261名増

※上記従業員数には、パート及び嘱託社員は含んでおりません。

取締役及び監査役 (2019年6月21日時点)

代表取締役社長	田 尻 稲 雄	取 締 役 中 村 秀 一
代表取締役副社長	秋 野 治 郎	社 外 取 締 役 小 池 明 夫
取締役専務執行役員	川 島 龍 一	社 外 取 締 役 一 色 浩 三
取締役専務執行役員	田 中 義 寛	社 外 取 締 役 井 部 俊 子
取締役専務執行役員	坂 下 誠	常 勤 監 査 役 畑 下 正 行
取締役常務執行役員	角 和 彦	常 勤 監 査 役 四 十 物 実 史
取締役常務執行役員	青 山 明	監 査 役 米 屋 佳 史
取締役常務執行役員	蔵 本 正 樹	
取締役執行役員	平 島 英 治	
取締役執行役員	多 湖 健 太 郎	

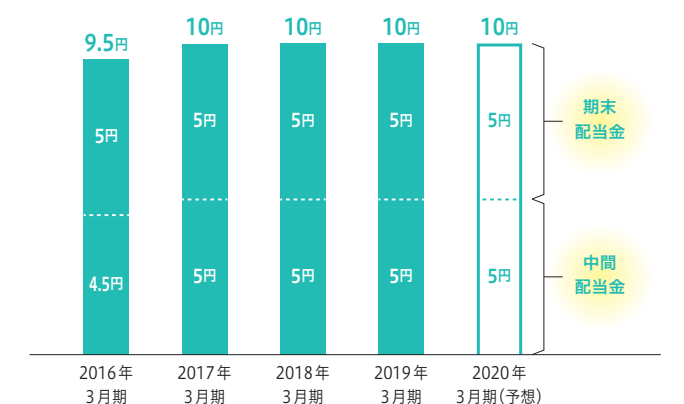
配当金について

当社は財務体質の強化、事業規模の拡大、人材育成等のために必要な内部留保を確保しつつ、業績に見合った形で株主の皆様へ安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

当期(2019年3月期)の期末配当金につきましては、1株当たり5円を実施しております。2018年12月10日に実施済みの中間配当金(1株当たり5円)と合わせまして、年間配当金は1株当たり10円となります。

次期の配当につきましては、2020年3月期の連結業績予想を踏まえ、中間配当金、期末配当金それぞれ1株当たり5円(年間配当金は1株当たり10円)を予定しております。

1株当たり配当金の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

配当の基準日 9月30日、3月31日（年2回）

1単元の株式数 100株

公告方法 電子公告 (http://www.msnw.co.jp/IR_kabushiki_07/)

但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

各種お取扱・お問い合わせはこちらまで

お取扱窓口 …………… 証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこととなりますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。

証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）、下記のお取扱店にてお取次いたします。（みずほ証券で単元未満株式の買増請求手続きをされる場合は、事前にみずほ信託銀行が指定する口座に送金していただく必要があります）

なお、支払明細の発行に関するお手続きにつきましては、みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

お問い合わせ先 …………… 〒168-8507

東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
フリーダイヤル

0120-288-324（土・日・祝日を除く 9:00～17:00）

お取扱店 …………… みずほ証券

本店、全国各支店
プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）

みずほ信託銀行
本店および全国各支店

未払配当金のお支払 …… 上記お取扱店および、みずほ銀行の本店および全国各支店
（みずほ証券では取次のみとなります）

IRのお問い合わせ先 株式会社メディカルシステムネットワーク
経営企画部 IR 担当
TEL：011-613-7750 FAX：011-558-7067
e-mail：info@msnw.co.jp

お知らせ

金融情報配信会社 株式会社
シェアードリサーチによる当
社についての企業調査レポ
ートを配信しています。



配信媒体

- ヤフーファイナンス、
MSNマネーなどのポータルサイト
- トムソンロイター、
ブルームバーグなどの投資
専門家向けプラットフォーム
- 各証券会社のイントラネット
（証券営業担当向け）など

当社HPにも掲載しています。
ぜひご覧ください。

<http://www.msnw.co.jp>



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた
見やすいデザインの文字を採用しています。



環境保全のため、FSC®認証紙と植物
油インキを使用して印刷しています。